

データサイエンス共同利用基盤施設
令和３年度 第２回運営会議 議事概要

日 時：令和３年６月２８日（月）13:30～15:40

場 所：ウェブ会議（Zoom を利用）

出席者：

【外部委員】近藤委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、中井委員、堀委員、三好委員、
矢嶋委員、横山雅之委員

【内部委員】藤山委員、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、上野委員、
野水委員

【陪席】 五斗副センター長、荒木特任教授、平野企画連携課長、橋本副課長、
昨間 DS 推進係長

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしており本会議が成立することが報告された。

審議事項

１．前回議事要旨確認

藤山委員から、事前に確定済みの前回議事要旨を掲載する旨の説明があった。

２．令和３年度人事について

門倉委員から、資料２－１・２－２（回収資料）に基づき、極域環境データサイエンスセンターの特任研究員の新規採用について説明があり、審議の結果、承認された。

３．2021 年度公募型共同研究の最終審査について

野水委員から、資料３－１～３－４に基づき、今年度公募型共同研究の審査過程および審査結果について説明があった。特に、D 評価（採択すべきでない）を含む課題の審査結果を確認し、審議の結果、採択基準（評点 1.0）を下回る 2 課題を不採択とし、採択課題の配分率は資料３－４のとおりとする案が承認された。

続けて、野水委員から、資料３－５に基づき、第３期を通じての公募型共同研究の採択状況や参加者所属機関の分布について説明があった。また、今年度２回目の共同研究課題の募集を行うことについて説明があり、審議の結果、承認された。

委員から、DS 施設の公募型共同研究の最終形、または目標、将来像について質問があり、施設長から、センターで年間５～６件以上の課題を引き受けるのはかなりの負担になってきており、施設としては第３期は大学研究者の支援を中心として研究は表に出してこなかったが、昨年度辺りからは研究も前面に出しており、第４期はたとえば組織としてエフォート率の目安を共同研究、研究、人材育成などにそれぞれ何％と設定し、そ

れを目安に活動するといったことを考えている、との回答があった。このほか、委員から、参加機関に大学共同利用機関が少ないので、連合体の検討の機会などを通じて DS 施設の宣伝をしてはどうかとの発言があった。

報告事項

4. 第4期中期目標期間に向けての検討状況について

五斗委員から、資料4-1～4-3に基づき、本機構における第4期中期目標・中期計画策定の検討状況について、本機構が中期目標において教育研究の質の向上に関する事項として設定する10項目のうち、DS施設は3項目（②、③、⑩）について対応する中期計画を検討している旨、また、中期計画を達成するために指標とするものを6年間のロードマップとして検討している旨説明があった。

藤山委員から、本機構の中期目標全体の中でのDS施設の位置づけはこれからの議論を通して明らかになる旨、また意見は随時受け付ける旨説明があった。

5. 令和4年度概算要求について

藤山委員及び荒木委員から、資料5-1～5-3に基づき、今回概算要求にかかる機構と文科省の動き、またDS施設が関連する組織整備要求の内容について説明があった。

6. 意見交換

以下の意見交換を行った。

- ・概算要求で提案されている人材育成は、どのような人が対象になるのか。大学にデータサイエンス学部等の設置が広がりつつあるが教員養成には時間を要するので、DS施設において応用範囲の広いデータサイエンティストの教育を短期的に実現するのは大きな貢献になると考える。
- 社会人リカレント教育は統数研統計思考院が行う。本事業は、大学の助教クラスの方が統数研・DS施設に来てデータ駆動型研究や統計数理エキスパート教育を受け、その先生方が大学に戻って修士レベルの学生を育てるプランである。質保証については統数研の統計数理エキスパート事業で資格を与えるなど課題として検討している。
- ・概算要求でEBPMの増員要求を行っているが、DS施設の人材育成がEBPM業務を行う者の養成につながるのであれば、社会的ニーズがあるのではないか。
- 統計エキスパート人材育成事業、データサイエンス教員養成パイロット事業のどちらもそのような教育を含むとは聞いていない。この事業では教員としての採用になるので、研究活動を行える者ということになる。
- ・データ解析のためのAIツールが視野に入っている良いのではないか。
- AIツールについては当機構の中では主に情報研が扱う。また統数研には機械学習の部門がある。キーワードに対してそれは誰に聞けばよい、といった整理ができるようになると良いと思う。
- ・質保証といったときに、DS施設が積極的にカリキュラムを作っていく考えはあるか。統計解析を行う段階的なスキルを国の施設として統一見解となるカリキュラムを示

- し国内で関連する大学の学部を引っ張っていくことができればよいと思う。
- 統計数理エキスパート事業の中でカリキュラムのフレームワークづくりのために第3期に教員2名の概算要求が認められ、現在実施している。質保証についてもこの事業の中で提案ができないか検討している。
- ・数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムでは全国の大学がスキルセットなどの議論を行っているが、DS 施設とはどのような関係にあるのか。DS 施設がよりビジブルになりより強い指導力を発揮してほしい。データ科学が大学の中で共通の必修科目となる中で、現場レベルでは体系だった教科書、スタンダードな辞典などをどこかに音頭を取って作ってほしいと思っている。
- DS 施設と統数研との連携によりコンソーシアムとの連携が図られていく。指摘された活動が統計エキスパート人材育成事業・DS 教員養成事業の柱になっている。

資 料：

0－1	データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿	P. 3
0－2	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程	P. 4
1－1	令和2年度第6回運営会議議事概要	P. 6
2－1	令和3年度人事案件 審議対象者リスト [回収資料]	画面共有
2－2	令和3年度人事案件 審査資料 [回収資料]	画面共有
3－1	R0IS-DS-JOINT2021 審査要項	P. 10
3－2	書類審査委員一覧（専門分野）	P. 14
3－3	審査担当割	P. 15
3－4	書類審査結果一覧	P. 16
3－5	DS 公募まとめ（件数推移、所属機関分布）	P. 18
4－1	第4期中期目標・中期計画に向けての検討状況について	P. 23
4－2	第4期中期目標・中期計画検討WG（第19回）資料（抜粋）	P. 24
4－3	中期計画のロードマップ（案）210602（まとめ+DS）	P. 41
5－1	R4 概算要求資料（EBPM に基づいたトップマネジメント強化による機構運営の推進）	P. 48
5－2	R4 概算要求資料（情報とシステムの視点に基づくデータサイエンスの革新的共同利用・共同研究推進組織整備事業）	P. 50
5－3	R4 概算要求資料（教育研究組織整備事業（DS 関連人材育成体制の構築））	P. 52